

明治大学図書館所蔵資料の蔵書印(2)

飯塚 貴子* 梅林 千香子**

雀庵文庫



所用者 加藤雀庵 (1796~1875)
大きさ 1.7 × 1.6cm (朱印)
撮影資料 『憂世編』(請求記号：092.4/20//H)

雀庵



所用者 加藤雀庵 (1796~1875)
大きさ 3.0 × 2.9cm (朱印)
撮影資料 『憂世編』(請求記号：092.4/20//H)

江戸時代後期の随筆家・俳人。本名は加藤昶。号は篠廼屋翁、庵静妥什山人、等他多数。下谷に生まれ、周辺を活動の場とした。祖父は千住小塚原の名主から分家した田中弥四郎。加藤は妻の里方の姓。作品は随筆『さべづり草』が有名。号の一つ「藤の長房」にちなんでか「長房」という印も存在する。

*いづか・たかこ／図書館事務部総合サービス課

**うめばやし・ちかこ／図書館事務部和泉図書課

温故堂文庫



所用者 埴忠宝 (1807~1862)

大きさ 7.6 × 1.9cm (朱印)

撮影資料『創業記』(請求記号：210.52/19//H)

江戸時代末期の国学者。号は温故堂。『群書類従』の編者として著名な埴保己一の四男。父の死後、跡をついで和学講談所御用掛となり、『史料』『武家名目抄』『続群書類従』の編纂に力を注いだ。晩年、老中安藤信正の命令で寛永以前の外国人待遇の式例を調べたことが廢帝について調査していると誤伝となり、尊王浪士であった伊藤博文と山尾庸三に暗殺された。

埴



所用者 埴忠韶 (1832~1918)

大きさ 1.1 × 0.8cm (朱印)

撮影資料『温泉小言』(請求記号：492.54/2//HZ)

埴忠宝の長男。父の不慮の死後、家督をついだ。勘定格で和学講談所付を命じられ、稽古所で国史・律令を教授した。維新後は大学少教授、修士局御用等を歴任した。祖父保己一が企画、父忠宝が引き継いだ『続群書類従』書目の蒐集・校訂・浄書に努め、『続群書類従』は1911(明治44)年に完成した。

只誠藏



所用者 関根只誠 (1825～1893)

大きさ 2.7 × 1.0cm (朱印)

撮影資料『安齋隨筆目録』(請求記号：092.5/37//H)

せきね文庫



所用者 関根只誠 (1825～1893)

大きさ 5.7 × 2.2cm (朱印)

撮影資料『大嘗會便蒙, 2巻』(請求記号：092.1/21//H)

関根只誠は演劇通として知られ、河竹黙阿弥、仮名垣魯文らとの親交があり、『演劇叢話』『名人忌辰録』などの多くの著作を残した。また蔵書家としても有名であった。関根只誠・正直父子の旧蔵書は関根文庫と称される。有識故実関係の蔵書は戦後古書店を通じて明治大学図書館に納められたとされる。

関根文庫



所用者 関根正直 (1860～1932)

大きさ 4.0 × 2.4cm (朱印)

撮影資料『大嘗會便蒙, 2巻』(請求記号：092.1/21//H)

関根正直は国文学者、故実家。『古事類苑』編纂に従事した後、華族女学校、学習院、東京女子高等師範学校等の教授を歴任、大正6年宮内省御用掛となった。著書に『装束甲冑図解』『宮殿調度図解』『更級日記略解』等がある。

南賓



所用者 戸川残花 (1855～1924)

大きさ 1.0 × 1.1cm (朱印)

撮影資料『曾我物語, 12 卷』(請求記号: 092.1/41//H)

残花書屋



所用者 戸川残花 (1855～1924)

大きさ 4.6 × 1.9cm (朱印)

撮影資料『曾我物語, 12 卷』(請求記号: 092.1/41//H)

明治～昭和期にかけて活躍した詩人・評論家。日本女子大学教授。代表作は「桂川」、「幕末小史」など。雑誌太陽(1 卷 7 号, 1895 年)に「フルベッキ博士とヘボン先生」という一文を寄せた際に、長崎にて撮影された、各藩の勤皇党及び西郷南洲翁及び勝海舟らの写真を紹介した人物としても知られている。「残花書屋」の蔵書印は墨印も存在する。

月明荘



所用者 反町茂雄 (1901～1991)

大きさ 1.5 × 1.5cm (朱印)

撮影資料『駿臺雑話, 5 卷』(請求記号: 092.4/43//H)

昭和期の書誌学者、古書籍商。弘文荘代表取締役、文庫の会会長、東京古典会会長、明治古典会会長を歴任。自身を描いた「一古書肆の思い出」(平凡社, 1986-1992)や「紙魚の昔がたり」(訪書会, 1934)、「定本・天理図書館の善本稀書」などを著した。